アドビ株式会社
141-0032　品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー

アドビと Google がパートナーシップを拡大、クリエイターや企業向けに最先端の AI モデルと統合ワークフローを提供

- アドビと Google は、アドビのクリエイティブおよび生産性ツールへのアクセスを Google Workspace、Gemini、Gemini Enterprise、および Google 検索の「AI モード」に拡大
- アドビは、Google の最先端 AI モデルを自社のクリエイティブおよび生産性ツールに導入
- アドビと Google DeepMind は、AI を活用した次世代の画像編集機能の共同開発を、Adobe Photoshop 向けから開始

※当資料は、2026 年 11 月 10 日（米国時間）に米国本社から発表されたプレスリリースの抄訳版です。

【2026 年 11 月 11 日】
アドビ（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）と Google は本日、世界最大級のクリエイティビティカンファレンス Adobe MAX において、アドビのツールをより多くの Google 製品に、また Google の AI モデルをさらに多くのアドビアプリに導入するための戦略的提携の拡大を発表しました。これにより、Adobe Acrobat が Google Workspace で利用可能となり、Google Drive および Gmail からアクセスできるようになります。また、Gemini および Gemini Enterprise 向けコネクタにより、Adobe Acrobat やアドビのクリエイティブツールを直接利用できるようになるほか、アドビは Google 検索の「AI モード」にもクリエイティブツールを提供します。Google の最新の画像・動画モデルは、Adobe Firefly、Adobe Photoshop、Adobe Premiere、Adobe Express に導入され、Adobe Acrobat の AI 機能は、Gemini モデルの追加によりさらに強化されます。また、アドビと Google DeepMind は、AI を活用した新しい編集機能の共同開発を行い、まずは Adobe Photoshop 向けから開始します。この提携は、クリエイターやクリエイティブプロフェッショナルから、企業やデジタルワーカーにいたるまで、より多くの人々がアイデアをより迅速に形にし、高品質なコンテンツを作成できるよう、シームレスで統合されたワークフローを提供することを目的としています。

一つのプロジェクトのドキュメントの作成においてでも、ユーザーは通常、複数のアプリケーション間を行き来します。今回の提携拡大により、アドビのツールをユーザーが日常的に使用するGoogle の生産性向上プラットフォームに組み込み、Google の AI モデルをアドビのツールに導入することで、こうした行き来を最小限に抑えることが可能になります。アドビのクリエイティブおよび生産性ソリューションは月間十億人強のアクティブユーザーに利用され、一方で Google の製品とサービスは世界中で数十億人のユーザーをサポートしており、両社の世界的に使用されているプラットフォーム同士が連携されることになります。

アドビの社長兼次期最高経営責任者（CEO）であるアニール チャクラヴァーシー（Anil Chakravarthy）は、次のように述べています。「アドビの使命は、すべての人に『つくる力』を与えることです。私たちの AI イノベーションは、より多くのユーザーが自分の思いを伝えられるように、クリエイティブコントロールを維持しながら表現力を強化できる制作アプローチを提供しています。この度、Google とのパートナーシップの拡大を通じて Google の最先端 AI モデルとアドビの業界をリードするクリエイティブおよび生産性向上ツールがグローバル規模で融合することで、一歩進んだ体験を提供できるとともに、両社の製品を介してより多くの人々にアドビのイノベーションを届けることが可能になります。」

Google Cloud の CEO であるトーマス キュリアン（Thomas Kurian）氏は、次のように述べています。「アドビとのパートナーシップ拡大は、オープンイノベーションと選択肢の提供という当社の取り組みを一歩進めたもので、Google の基盤モデルや Workspace のコラボレーションサービスと、アドビのクリエイティブおよび生産性向上ツールを融合させます。それぞれのプラットフォームをさらに連携させることで、クリエイターや企業ユーザーに対し、アイデアをインパクトのあるコンテンツへと変えるための強力かつ統合された環境を提供します。」

本提携の主な内容は以下の通りです。

- **Google Workspace への Adobe Acrobat の導入：**Adobe Acrobat が Google Workspace で利用可能になり、ユーザーは Google Drive や Gmail から Adobe Acrobat へ直接アクセスできるようになります。Adobe Acrobat は、Google のファイルプレビュー内の「アプリで開く」というエントリーポイントを含め、サービス全体にわたり推奨アプリとして表示されます。毎年 4,000 億以上の PDF が Adobe Acrobat で開かれており、この統合により、人々が日常的に使う Google ツールにアドビの PDF ソリューションが組み込まれ、使いやすさが向上します。

- **Gemini を活用したドキュメントインテリジェンスの強化：**アドビは、Google の AI モデルを Adobe Acrobat の AI 機能を支える一連のモデルに追加します。これにより、ユーザーは会話形式で PDF を編集したり、ドキュメント内の情報を深く理解したり、プレゼンテーション、履歴書、レポートなどの資料をより迅速かつ洗練されたデザインで作成できるようになります。
- **Google の AI 体験におけるアドビツールの拡充：**最近リリースされた「Google Gemini 向けコネクタ」および Gemini、Gemini Enterprise との連携を基盤として、アドビは Adobe Acrobat やその他のアドビのクリエイティブツールとの連携を拡大し、ユーザーが会話画面内で直接、画像の補正、デザインのカスタマイズ、PDF の編集を行えるようにします。また、アドビは Google 検索の「AI モード」にもクリエイティブツールを導入し、ユーザーがアイデアの検索からその具現化までを 1 か所で行うことができるようにします。
- **アドビのクリエイティブツール全体への Google 最先端 AI モデルの統合：**クリエイター、クリエイティブプロフェッショナル、および企業ユーザーは、Adobe Firefly、Adobe Photoshop、Adobe Express、Adobe Premiere において、引き続き Google の最新の画像・動画モデルを利用できます。アドビのユーザーはすでに、Gemini Omni、Veo、Nano Banana を含む Google の最先端 AI モデルを利用可能です。これは、アドビのパートナーモデル戦略に基づくもので、ユーザーは業界トップクラスの AI モデルを活用しつつ、アドビのプロ向けツールの精度とコントロール性を維持しながら創作できるようになります。
- **Google DeepMind とのクリエイティブな編集体験の探求：**アドビと Google DeepMind は、Google の AI に関する専門知識と、アドビが持つクリエイティブワークフローへの深い理解を融合させ、クリエイティブプロフェッショナルのための新たな編集機能の探求に取り組みます。例えば、両社は Adobe Photoshop 向けに Google の画像 AI モデルをカスタマイズし、ほぼリアルタイムでの編集を可能にすることを検討しています。これにより、プロのクリエイターは、クリエイティブな流れを中断することなく、プロンプトを使って画像を調整し、自身のビジョンに最も合致するバリエーションを選択できるようになります。

今回の提携拡大は、両社の事業領域を横断的にカバーする、長年にわたる協業をさらに一歩進めたものです。これまでの協業事例としては、Adobe CX Enterprise Coworker の Gemini Enterprise への導入、Adobe Premiere Android 版のリリース、今後登場する Google Books への Adobe Photoshop、Adobe Lightroom、Adobe Premiere の搭載、そして Adobe Premiere モバイル版に

おける YouTube ショート専用の制作スペースの構築に向けた YouTube との提携などが挙げられます。

■「アドビ」について

アドビは創造性、生産性、そしてパーソナライズされた顧客体験を実現する革新的なプラットフォームとツールを提供し、 -Empowering everyone to create- すべての人が創造力を発揮できるよう支援してまいります。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト（https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html）をご覧ください。

© 2026 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

■Google について

Google のミッションは、世界中の情報を整理し、誰もがアクセスできて活用できるようにすることです。Google は、検索、Google マップ、Gmail、Android、Google Play、Google Cloud、Chrome、YouTube などの製品やプラットフォームを通じて、世界中の何十億もの人々の日常生活を支えています。また、Google は世界で最も広く知られた企業の一つとなっています。Google は Alphabet Inc. の子会社です。

Forward Looking Statements

This press release contains "forward-looking statements" within the meaning of applicable securities laws, including those related to Adobe's new, enhanced or future AI and product capabilities, innovations and offerings and the expected benefits to Adobe. Each of the forward-looking statements Adobe makes in this press release involves risks, uncertainties and assumptions based on information available to Adobe as of the date of this press release. Such risks and uncertainties, many of which relate to matters beyond Adobe's control, could cause actual results to differ materially from these forward-looking statements. Factors that might cause or contribute to such differences include, but are not limited to: failure to innovate effectively and meet customer needs; issues relating to development and use of AI; failure to compete effectively; damage to Adobe's reputation or brands; failure to realize the anticipated benefits of investments or acquisitions; service interruptions or failures in information technology systems by Adobe or third parties; security incidents; failure to effectively develop, manage and maintain critical third-party business relationships; risks associated with being a multinational corporation and adverse macroeconomic conditions; complex sales cycles; failure to recruit and retain key personnel; litigation, regulatory inquiries and intellectual property infringement claims; changes in, and compliance with, global laws and regulations, including those related to information security and privacy; failure to protect Adobe's intellectual property; changes in tax regulations; complex government procurement processes; risks related to fluctuations in or the timing of revenue recognition from Adobe's subscription offerings; fluctuations in foreign currency exchange rates; impairment charges; existing and future debt obligations; catastrophic events; and fluctuations in Adobe's stock price. Further information on these and other factors are discussed in the section titled "Risk Factors" in Adobe's most recently filed Annual Report on Form 10-K and Adobe's most recently filed Quarterly Reports on Form 10- Q. The risks described in this press release and in Adobe's filings with the U.S. Securities and Exchange Commission should be carefully reviewed. Adobe undertakes no obligation, and does not intend, to update the forward-looking statements, except as required by law.